

長野県産シダ植物の新産地 (5)

上野勝典*・上野由貴枝*

New localities of some *pteridophytes* in Nagano Prefecture (5)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

はじめに

既存の文献(「長野県植物誌」、「CD-ROM 長野県植物誌資料集」、「長野県版レッドデータブック」、その他市町村誌自然編など)に分布情報の記載が無いか、または分布上注目されるシダ植物について、前報(上野・上野 2007)に引き続いて報告する。種の同定においては『日本の野生植物 シダ』と『信州のシダ』を主に参考にした。なお、標本の採集者は上野勝典・上野由貴枝である。

コバノイシカグマ(コバノイシカグマ科)

Dennstaedtia scabra

- ・松本市黒沢川 830 m 2007 年 12 月 9 日 NAC 152916
- ・白馬村佐野坂 780 m 2008 年 4 月 25 日 NAC 152926

コバノイシカグマは県南部を中心に分布する暖地性シダで、県中部ではあまり見かけないが、近年塩尻市で発見されている(上野・上野 2006)。黒沢川は北アルプスのふもとの安曇野を流れており、冬に比較的雪が多く、暖地性シダが越冬できるのかもしれない。現地ではホソバナライシダやシノブカグマが多数群生する中、やや日当たりの良い斜面に本種が小さな群落を形成していた。

白馬村佐野坂では、スキー場近くのスギ林で、暖地性シダが多数見られ興味深い。後述のカタイノデ、シケチシダも同じ場所で見つかった。他の暖地性シダでは、イノデモドキ、イワガネソウも観察された。

クモイワトラノオ(チャセンシダ科)

Asplenium × *akaishiense*

- ・伊那市戸台 980 m 2007 年 8 月 15 日 NAC 152909

本種はイワトラノオとクモノスシダとの雑種でごくまれに見られ、クモノスシダが単羽状に深く切

れ込んだ形をしている(大塚 1987)。以前、トラノオシダとクモノスシダの雑種であるヤマドリトラノオを観察した(上野・上野 2007)のとはほぼ同じ場所の石灰岩の岩場において本種を発見した。現地ではイワトラノオとクモノスシダが多数群落を作っており、両者の群落からやや離れて二株だけ生育していた。後日、戸台川のより下流域の岩場においても、本種を二株確認することができた。

イワヘゴ(オシダ科) *Dryopteris atrata*

- ・天竜村不当 300 m 2008 年 7 月 28 日 NAC146627
- ・南木曾町柿其 600 m 2007 年 8 月 18 日 NAC 152914
- ・根羽村桧原 850 m 2008 年 8 月 18 日 NAC 152933

本種は暖地性のシダで、以前は県南部の限られた場所ではしか観察されなかったが、最近、県中部の塩尻市から発見されるなど(上野・上野 2007)、生育地が増えているように思う。南木曾では、ここに報告する柿其のほか、以前報告した大妻籠と田立を含め広い範囲で観察できる。根羽村と南木曾町柿其における生育場所は、ともにスギ林下で、溪流のすぐ脇の水の流れに近い場所であった。どちらも数株がまとまって生育しており、比較的良好的な生育状況であった。根羽村では標高が 850 m と暖地性シダが生育するにはかなり高いが、後述のキヨスミヒメワラビも同じ場所で見つかっており、当地は比較的温暖な気候ではないかと思われる。天竜村では、道路脇の法面に 2 株が生育していた。この場所はよくシダの観察が行われる場所であるにも関わらず、今まで見つかっていなかったことから、近年定着してきたものと思われる。

ナガバヤブソテツ(オシダ科)

Cryptomium devexiscaplae

- ・天龍村不当 300 m 2007 年 7 月 28 日 NAC146628

* 上野勝典・上野由貴枝 〒399-0011 松本市寿北 2-2-38

ナガバヤブソテツは暖地性シダで、関東以西ではごく普通に見られものの、県内での報告はほとんど無い。オニヤブソテツ *C. falcatum* によく似ているが、より内陸部に生育し、羽片がやや細長く、質もより薄い感じである。以前、オニヤブソテツとして報告した天龍村為栗（上野・上野 2006）のものも本種と同じナガバヤブソテツである。現地では、スギ林下の石積みされた道路脇法面に一株だけが生育していた。なお、最近、松本市内でもオニヤブソテツが見られたとの報告もあり、長野県内でも都市部の温暖化の影響が考えられる（佐藤他 2008）。

キヨスミヒメワラビ（オシダ科）

Clenitis maximowicziana

・塩尻市日出塩 800 m 2007 年 9 月 24 日

・根羽村桧原 850 m 2008 年 8 月 18 日

NAC 152932

本種は常緑の暖地性シダで県南部に分布しており、白いリン片が目立つ特徴がある。塩尻市では奈良井川脇に孢子囊群を付けていない幼株が一株のみ生育していた。2 年ほど前に発見し、生育を見守ってきたが、2008 年の夏に見に行ったところ消失していたので、おそらく川の増水時に流されたものと思われる。根羽村では、前述のイワヘゴのすぐ近くに一株だけが道路脇に生育していた。

ワタナベシダ（オシダ科） *Dryopteris carthusiana*

写真 1

・上松町萩原 800m 2007 年 4 月 28 日

NAC146622

以前、上松町にてアメリカシラネワラビ *intermedia* を報告したが（上野・上野 2007）、同じ場所にそれとは異なるシダが生えており、葉柄基部のリン片が淡い褐色であること、小羽片の切れ込みが浅いこと、羽軸基部のリン片の宿在が少ないことなどの特徴から、別種のワタナベシダであることがわかった。ワタナベシダはヨーロッパ原産の帰化植物と考えられており（中池 2003）、長野県内では信州大の佐藤利幸氏によって南木曽町で発見されている（清水 2007）。現地では、少し離れて数株が生育しており、まだ孢子囊群をつけるほどには成熟していなかった。

トヨグチイノデ（オシダ科） *Polystichum ohmurae*

・富士見町立場川 1850 m 2007 年 7 月 1 日

NAC146633

八ヶ岳の登山道近くで、数株のトヨグチイノデが生育しているのを発見した。トヨグチイノデは最下羽片がやや縮小し、孢子囊群が羽片の縁寄りに付くなどの特徴があり、低山帯上部から亜高山帯の石灰岩地で見いだされることが多い。比較的少ないシダで、おもに南アルプスから秩父にかけて分布しており、県内では北部を除き、点在している。八ヶ岳周辺では、八ヶ岳の山梨県側、佐久市（旧望月町）（上野・上野 2004）での報告がある。

アイアスカイノデ（オシダ科） *Polystichum longifrons*

・塩尻市宗賀尾沢 820 m 2007 年 11 月 17 日

NAC 152912

林道の脇のスギ林下に一株のみ生育しているのを見つけた。アイアスカイノデは暖地性のシダで県南部を中心に分布しているが、近年松本市内でも見つかる（上野・上野 2007）。

カタイノデ（オシダ科） *Polystichum makinoi*

・泰阜村温田 410 m 2008 年 3 月 7 日

NAC 152928

・白馬村佐野坂 780 m 2008 年 4 月 25 日

NAC 152927

・塩尻市柿沢 900 m 2008 年 12 月 13 日

カタイノデは暖地性シダで、主に県南部に知られていたが、近年北部でも発見され、その後、塩尻市内で 3 か所、波田町で 1 か所で見つかるなど、県中部では複数個所で発見されている。今回、さらに数か所でカタイノデを見つけた。泰阜村では急斜面のスギ林で、白馬村では前述のコバノイシカグマが見られたスギ林で、また塩尻市でもやはり北向きのスギ林下で見られた。泰阜村では数株が見られ、白馬村および塩尻市の場所ではどちらも一株のみで、葉身が 50cm に達してどれも良好な生育状況だった。塩尻市では 4 か所めとなる。

イノデ（オシダ科） *Polystichum polyblepharum*

・松本市（旧梓川村）黒沢川 830 m 2008 年 3 月 30 日 NAC 152931

イノデは暖地性シダで、おもに県南部に分布し、県中部で見られることはほとんど無い。現地では溪流わきのスギ林下に数株が離れて生育していた。

ヨコグラヒメワラビ *Thelypteris hattorii* 写真 2

・南木曽町岩倉 800 m 2008 年 7 月 19 日

NAC 152929



写真1 ワタナベシダ 上松町 2007年4月28日

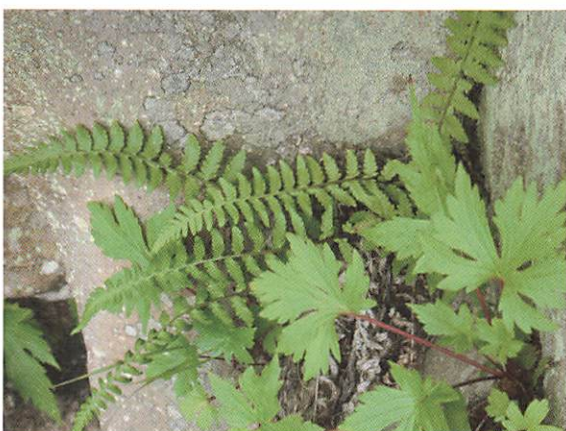


写真3 イワイヌワラビ 松本市乗鞍高原
2007年8月11日



写真5 オオクボシダ 塩尻市 2008年4月13日



写真2 ヨコグラヒメワラビ 南木曽町
2008年7月19日

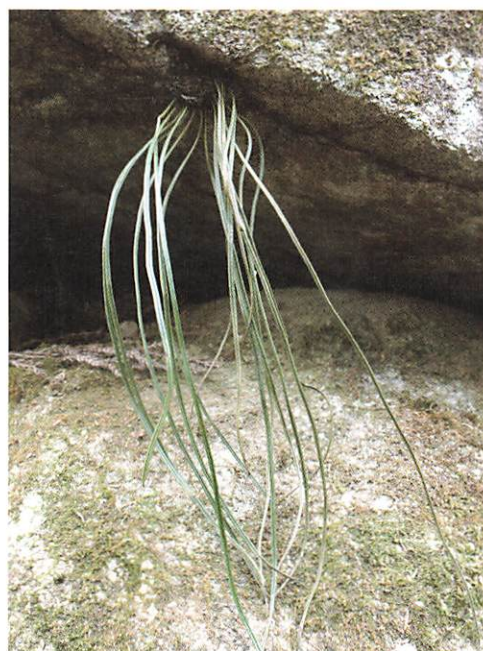


写真4 クラガリシダ 根羽村
2008年4月5日

柿其奥の溪流わきに数株がまとまって生育しているのを見つけた。ヤワラシダ *T. laxa* によく似ているが、最下羽片が最大となり、葉身は三角形で、小羽片の切れ込みがより深い。長野県では南木曽の男垂山周辺での記録があるものの、稀にしか見ることができない。葉柄の裏側に毛の無いものはツクシヤワラシダ *T. hattorii* var. *nemoralis* として区別している。

シケチシダ *Cornopteris decurrentialata*

・白馬村佐野坂 780 m 2007年7月7日
NAC146634

シケチシダは暖地性の夏緑性シダで、県南部に分布し、暖地の水っぽい湿ったところでは普通に見られるシダだが、県北部ではめずらしいと思われるので報告する。現地では前述のカタイノデ、コバノイシカグマなども見られた。

イワイヌワラビ *Athyrium rupestre* 写真 3

・松本市乗鞍高原三本滝 1950 m 2007 年 8 月 11 日 NAC146618

比較的日当たりの良い、岩場の陰に数株のイワイヌワラビが生えているのを見つけた。本種はヘビノネゴザの単羽状の型のものによく似ているが、より羽片が丸い感じで、小羽片の尖りが少なく、大きな孢子嚢群が縁寄りに付き、包膜の縁が切れ込んでいるなどの違いがある。また、羽片の質もより硬い。県内では大町、王滝村などでの記録がある（清水 1997）ものの、記録が少なく分布状況がよくわかっていない。

イワオモダカ *Pyrrosia hastata*

・泰阜村万古溪谷 400 m 2008 年 4 月 6 日 NAC 152923

常緑の着生のシダで、やや日当たりの良い岩場でときおり見かける。全県に分布しているものの、自生地は限定されており、比較的可見することは少ない。近くでは阿南町、天竜村、旧南信濃村では以前観察したことがある。

クラガリシダ *Dryotaenium miyoshianum* 写真 4

・根羽村小栃 500 m 2008 年 4 月 5 日 NAC 152920

・泰阜村万古溪谷 400 m 2008 年 7 月 16 日 NAC 152922

ノキシノブをさらに細長くしたような感じの常緑の着生シダで、県南部を中心に分布している。根羽村では岩上に、泰阜村では樹木に着生しているのを見つけた。近くでは旧南信濃村、阿南町、天竜村でも観察した。クラガリシダは、経験的にウロコノキシノブ *Lepisorus oligolepidus* と併せて見つかることが多く、泰阜村でも近くにウロコノキシノブが見られた。

オオクボシダ *Ziphopteris okuboi* 写真 5

・塩尻市（旧檜川村）橋戸川 980 m 2008 年 4 月 13 日 NAC 152917

オオクボシダは湿度の高い、比較的暗い岩場で見かける。暖地性のシダとされるが、亜高山帯などの寒いところでも見つかることがある。現地では溪流

脇の岩場に 3 株がかたまって着生していた。

謝辞

シダ植物の同定、関連の参考文献の紹介、ならびに本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所&ハーバリウム (NAC) の大塚孝一氏に心より感謝の意を表します。

引用文献

- 安曇村 (1998) 安曇村誌. 第一巻 自然.
 上野勝典・上野由貴枝 (2004) 長野県産シダ植物の新産地. 長野県植物研究会誌 37: 45-48.
 上野勝典・上野由貴枝 (2005) 長野県産シダ植物の新産地 (2). 長野県植物研究会誌 38: 133-136.
 上野勝典・上野由貴枝 (2006) 長野県産シダ植物の新産地 (3). 長野県植物研究会誌 39: 123-127.
 岩槻邦男編 (1992) 日本の野生植物シダ. 平凡社.
 大塚孝一 (1987) 長野県におけるチャセンシダ属種間雑種の産地及びその識別について. 長野県植物研究会誌 20: 122-123.
 大塚孝一 (2004) 信州のシダ. ほおずき書籍.
 佐藤利幸・松浦亮介・長谷川雅則・椋本祐司・北原光・一山加奈子・中尾有紀・田中崇行・大山真由子・片桐知之・片岡陽介・井坂友一 (2008) 新松本市の植物多様性とシダ植物相. 長野県植物研究会誌 41: 1-10.
 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.
 清水建美 (編) (2007) 「長野県植物誌」補遺 (10). 長野県植物研究会誌 40: 241-244.
 中池敏之 (2003) ワタナベシダ・アメリカシラネウラボ. 日本シダの会会報. 第 3 巻 35・36 号: 20-21.
 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック維管束植物編.
 長野県植物誌資料集作成委員会 (2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集 (普及版).